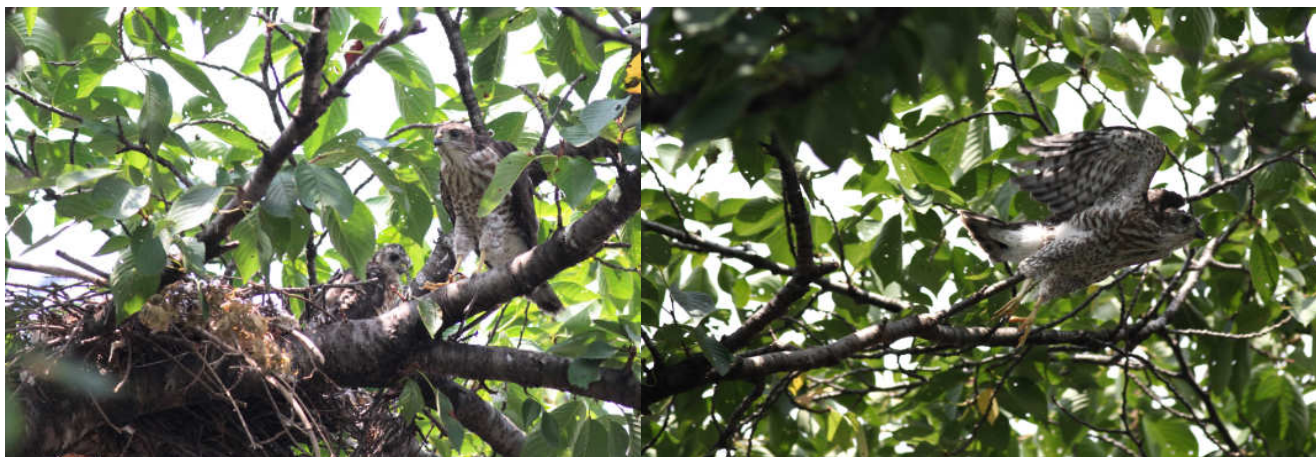


ツミの子育て、勝手に見たままの記

夫婦でのんびり鳥撮りの記

第二章 巣立ちへ 第2部 自立

<2012年8月10日> 今日は、静かな1日、巣の横に2番目の子と末っ子が枝へ止まり、1番子は時折枝から枝へと羽ばたく様も少しずつ滑らかになってきた。



<2012年8月11日>

3羽ともすっかり見違えるようにこの短い間に成長した姿を目の当たりにして、野鳥の成長の早さに驚いた。

AM: 8時32分 左、一番子

右、末っ子



AM: 8時35分 親鷹が又獲物を巣の中へ・・・と・・・又、一番子が獲物をさらって木の上へ。



<2012年 8月 11日>

PM: 14時00分 今度は、1番子が突然中庭に舞い降りた！ 慌ててカメラを持って金網越しのショット！「何を捕った？」



「玉虫？」最初の獲物が玉虫？ 暫くすると玉虫を置いたまま木の上に舞い上がる。

5分程して、そうだと玉虫を撮っておこうと戻ってカメラを向けたら、飛んだ！

「えっ、仮死だったの」



正面からみると、鷹斑もしっかり出て産毛も殆ど無くなって、母親と大きさも変わらなくなっている、小さかった末っ子も羽ばたきは一人前になっている。

昨日、今日と親が運んでくる餌は、巢のなかへ置いておくだけで、給餌はしなくなった。更には、1番子は近くの虫（昆虫類特にセミ）を狙う動きを何度か繰り返す。

雛から幼鳥そして若鳥と成長の姿がよく判るが、末っ子は餌を食べているのかなと心配する家内、しかし3羽とも巣から離れて止まることが多くなり、自立の兆しが見える。

<2012年 8月 12日>

1番子（長女）

2番子（次女）

3番子（長男）



長女・次女は母親にほぼ同じ大きさ（尾羽の長さが少し短い）長男は小さく5cm～7cm位小さく感じ、よく見ると精悍な感じで頭もすこし平べったい気がする。

もうこの頃になると1番と2番の違いは殆ど区別がつかずに、止まる枝で決めていたけど、それも判らないほどに産毛もなくなり、末っ子以外は産毛も目立たず、鷹らしくなってきた。

<2012年8月12日>

この日は長女（1番子）が初めて自分で獲物（セミ）を捕る！

捉える瞬間は残念ながら早く撮ることが出来なかったが、ようやく、いや早くも自分で狩りが出来るほどに成長し、次女（2番子）長男（3番子）も自分でセミを捕らえる程に成長したようだ。



すっかり鷹らしくなった、長女のセミを探す目の動き（うの目たかの目とはよく言ったものです）は目まぐるしく上下左右前後にと良く動き獲物の動きを確実に捉えるのに鋭さが増してきたようです。

長女と次女の区別もなかなか難しくはっきり区別可能は末っ子だけになりつつある。



右端の写真が末っ子で、まだ産毛が判り、更に上2羽に比べ小さいので判別可能。

<2012年8月13日> AM:9時15分俄かに騒がしくなるオナガの鳴き声（悲鳴）！

オナガの悲鳴のような声にツミの鳴き声、それに混じってバサバサと翼の羽ばたく音が金網の向こうから聞えてきた。

「お母さん何か見える」「あっお父さん！オナガが襲われてる！」「見えない！」

「今下に降りたヨッ！」「わかった」車に注意し、左右を確認して道路を渡る！



事情がやっと呑み込みました。

<AM 9時15分>

どうやら奥の桜の木にオナガの幼鳥がいたのを、長女が見つけ襲ったのを末っ子も素早くみつけ2羽が同時に追いかけて、押さえ込み草の陰で仕留めたようでした。

<AM 9時20分>

末っ子が待ちきれずに長女から獲物を横取りしたところです。



しょうがないという風に食事の途中で草の陰から出てきた長女。

<AM : 9 時 40 分> 末っ子のやっと満足した様子を見て私達はひとまず撤収です。



◇ 長女と末っ子の関係は、横取りされても黙って引き下がる長女は、なんだか末っ子を可愛がる母代わりのようでオナガには可愛そうですが姉弟鷹の愛情を見るような気分にさせられます。

<PM : 14 時 57 分> 珍しく親鷹が巣に獲物を投げ入れましたが、間髪を入れず長女が獲物をさらって、独り占めして食べてしまいました。



<PM : 15 時 16 分> 午前中は末っ子に途中でさらわれたので午後はしっかりと母親が巣に投げ込んだ獲物 1 羽を完食していました。